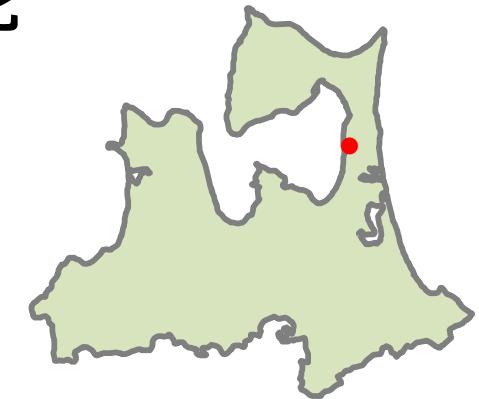


取組事例

風力発電を活用した地域の農林漁業の活性化

<施設概要>

- 事業実施主体：よこはま風力発電株式会社(青森県横浜町)
- 発電設備：風力発電(蓄電池併設型)
- 設備名称：横浜町雲雀平風力発電所(青森県横浜町雲雀平)
- 設備整備区域面積：1.1ha • 運転開始：平成30年2月
- 発電出力：32.2MW(2,300kW×14基)
- 年間発電量：約80GWh(一般家庭約15,000世帯分相当) • CO₂削減効果：年間約35,000t



<取組の経緯・概要>

- 横浜町は、青森県の下北半島の首位部に位置し、夏には南東風（ヤマセ）が多く、また、冬には北西の風により、年間を通じて安定した風況に恵まれている。一方で町は高齢化が進み耕作放棄地の増加が課題となっていた。こうした地域資源と課題を踏まえ、横浜町と風力発電事業者が出資して設立された、よこはま風力発電(株)により、風力発電を通じた耕作放棄地等の未利用地の有効活用と地域振興を目的として、平成27年6月横浜町再生可能エネルギー基本計画を作成。
- 売電による収益の一部を地域に還元する仕組み(基金化)を設け、横浜町の特産品であるなたねの作付助成や、GPS搭載のスマート農機・農業用ドローンによる農業の生産基盤強化に活用し、高齢化が進む農家の作業軽減や農業の生産性向上に寄与。
- 活用事業については、毎年度見直しを行い、その時々の農林水産情勢や各団体等の要望も踏まえて、緊急に対策が必要なものに充當。
- 発電設備の保守・管理業務の一部を地元事業者が担うことによる地域雇用や若手技術者育成を図る。



風力発電所
高さ：112m、ブレード直径：82m



再エネ寄付金を活用して
導入した農業用ドローン



観光資源でもあり、特産品でもある菜の花と風力発電所の共存